

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人ニコニコ診療所		
事業所名	グループホームおさかの里(さくら館)		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194番地9		
自己評価作成日	令和4年10月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールや居室の壁、ダンス等が木目調で、居室の窓はカーテンでなく障子を使用しており、懐かしさを感じられる。
 吹きぬげの中庭から差し込む光に温かみがあり、落ち着ける環境になっている。
 医療と介護の連携がとれており、適切な医療が素早く受けられる。
 各ユニットで統一したケアを目指してカンファを随時行い、御利用者が安心して生活出来る様、心掛けています。
 利用者の残存機能を活かした取り組みにしており、御利用者・職員共に笑顔溢れる内容にしている。
 国家資格を持っているスタッフが多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・医療と介護の連携がとれており、適切な情報共有ができています
- ・静かな環境で立地条件が良く、コロナ禍で遠出ができない中、外庭や駐車場、デッキなどで自由に散歩ができています
- ・国家資格を持った職員が多く、研修が充実している
- ・ユニット間で情報共有ができており、協力し合い、2ユニットともに質の高い支援ができています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念とモットーを唱和して実践に繋げようと努力している。	理念は玄関及び事務所に掲示している。朝夕2ユニット合同で申し送り時に唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため直接会っての交流は難しいが、週2回程度のボランティアの方が1名来てくれたり交流のあった地域の方が花や敬老の日のプレゼントを作成してくれたりその時々で気にかけて支援してくれる。	直接の交流は難しいが、週2回ボランティアが来てくれたり、今まで交流のあった地域の方が駐車場に花を植えたりプレゼントを届けてくれたり、オレンジカフェの職員と情報交換や法人が自治会に加入しているので地域の情報は入ってくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域でのサロン等で認知症について理解や支援方法、予防について発進し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組状況の説明と共に転倒防止のための足の運動の取り入れやリモートでの面会等の意見やアドバイスを活かしサービスの向上に努めている。	現在はオレンジカフェを利用し、委員及び家族ボランティアの出席で会議を開催している。コロナ禍での対応やヒヤリハットについての意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で実情や取り組みについて伝え相談するだけでなく、気になる事やわからない事など連絡をして関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には毎回必ず出席しているので事業所の取り組み状況などについて説明や相談を行いアドバイスももらっている。気になることや分からないことは電話や市役所へ行き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修で学び拘束しない事を前提に日々ケアに取り組んでいる。又、グループホーム会議の中でも気になる事はなく具体的に話をしてケアに取り組んでいる。	年に1~2回、法人で作成した資料による学習会を実施している。また2か月に1度は拘束についての話し合いをしている。現在センサーマット使用者が両ユニットで7名いるが拘束ではなく利用者の安全を守るために使用し、遠目から自然に見守り時機を見て除去している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修で学び、入浴や更衣時にボディチェックを行い傷等あれば記録に残し共有するなどして取り組んでいる。又、グループホーム会議でもチェックして話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修で学ぶ機会はあるが必要性について話し合ったり活用できる支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や疑問点等に対してよく説明をしてその都度理解や納得が図れる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や電話面会時等で家族の意見や要望を聞く機会があり又、利用者との話しの中で意見等聞いて反映に努めている。	運営推進会議や面会時、受診時、近況報告などの機会をとらえて意見を聞くようにしている。利用者との日常の関わりの中で思いや意見を聞き取り、全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やカンファレンス、日々の業務の中で意見や提案を聞いたり、管理者にちょっとしたことでも報告をして反映できる様に努めているが難しいことが多い。	日々の業務の中で意見や提案および申し送りノートを用いて職員の意見を把握している。遅出職員の出勤時間やホワイトボードを用いて4日先までの勤務・担当を見える化することで、日常業務がうまく流れるようになった。シャワーチェアが使いにくい意見を法人に提案し、購入が決定するなど意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせて整備に努めているが色々な不満があり各自が向上心を持って働けていなかったり、会議などに出された要望等の整備にも時間がかかってしまう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は資料を配布し自己学習を行える様にしている。又、外部研修もリモートや参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのためなかなか難しいが、研修会等で同業者との交流が行える様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談のあった時から本人や家族との顔合わせを行い関係作りをして、安心出来る様訴えや意見を受け入れて信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より要望や不安なことがないか確認して受入れ関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族利用者とまず話しをして必要性を判断しサービスを含め法人内での対応等も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で出来ることを見極め、洗濯物干し・たたみ、食器の片付け、食器洗い、テーブル拭き、シーツ交換等を行き時には人生の先輩として相談をしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため直接面会は出来ていないが、窓越し面会やライン面会等で近況報告をしたり、生活の様子を写真に撮り家族に渡したりして本人と家族の間に立って共に支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため馴染みの人との交流は難しいが写真等飾って忘れない様に支援している。	家族や友人はガラス戸越しに携帯での会話をしていますが、現状では新しい関わりは難しい。法人にある美容室を利用したり、近隣の人が花を持ってきたりファミリーサポートで週2回ほど来てくれる。また、なじみの場所や家族、友人などの写真を部屋に飾っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたトラブルはあるが、歌やゲーム等を通して利用者同士が関わりを持ち分らない事は教え合ったりして支え合っている。又、座る席や居室もうまく行く様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あった際は必要に応じて支援に努めているが、他施設に入所や入院後はコロナのため面会等には行けていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いに耳を傾けその意向にそえる様家族とも話し合っ意向が共有できる様申し送りノート等活用し検討に努めている。困難な場合は本人と話しをしてその時納得をしてもらったりしている。	日常の関わりの中で1人ひとりの思いに耳を傾け、意向の把握に努めている。訴えや気づきは申し送りノートに記載し、職員で話し合い共有している。必要に応じて本人と話し合ったり、家族に連絡するなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録や本人家族からの情報を職員同士が共有する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり自由に過ごしており、バイタルチェックや食事水分量等毎日確認記録し会話やレク等様子観察により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意見が反映される様職員間の話し合いや担当者会議等で介護計画を作成する様に努めている。	利用者1名に対して担当の職員が2名いる。本人や家族の思いや希望を集約しケアマネジャーと共有している。スタッフ全員で計画に関わり、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やチェック表申し送りノート等に記入し職員間で情報の共有を行ってプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス中心ではあるが、病院受診等家族がいけない人に対して職員が同行したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はオレンジカフェ等利用していたが現在は利用出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診している病院やかかりつけ医との情報の共有をされており、月2回の訪問診療がありそれ以外でも受診相談ができる様な支援をしている。	利用者全員が法人がかかりつけ医になっている。月に2回の訪問診療があるが、1日に2名の診療なので医師が毎日訪問しているかたちとなっており安心につながっている。専門医の受診は家族同伴で、職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に情報の共有を行い相談して適切な医療が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に連絡し状況の確認を行い情報交換しながら早期の退院が出来る様に関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族やかかりつけ医と話し合い事前に申し合わせ書を作成し再度出来る事出来ない事等確認してチームで支援に取り組んでいる。	重症化や終末期の対応については、利用開始時に事業所のできることを説明している。また、重症化に伴いその都度話し合いを行い、訪問看護を利用して看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを確認して訓練をして実践出来る様にしているが、毎年行っていた心臓マッサージやAEDの訓練がコロナのため行っておらず夜間等少し不安である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画で災害時の研修や避難訓練を実施しているが、地域の方への声掛け協力がコロナのため難しい現状がある。	年に2回、地震や火災を想定した訓練を実施している。事業所独自で消防署に来てもらい地震を想定した訓練を実施。また、夜間を想定して職員だけで連絡網、職員の動線について訓練を行っている。備蓄も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせ声掛けに工夫しプライドやプライバシーを損ねない様に思いやりを持った対応に努めている。	入浴時や排泄誘導時、利用者のプライドを傷つけないよう、職員全体で声かけや対応の心遣いを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な発言ができ職員はそれを傾聴してできるかぎり希望がかなえられる様又、衣類やレク参加食事等自己決定が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時等職員の都合を優先することがあるが、できるだけ1人ひとりのペースを大切にその日の過ごし方を希望に沿って支援する様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行き好みの髪型にしたり、その日の気分で着たい服を選んだりしてその人らしく過ごせる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を共に作ることはしていないが、嫌いな物は変更して嫌な気分にならない様にしたり、洗い片付けを共に行ったりしている。又、一ヶ月に1回程度職員と共におやつ作りを楽しんでいる。	朝食は事業所内で作っている。昼、夜、特食は法人から運び、冷めたものは温めなおし事業所内でつぎ分けをしている。利用者もテーブル拭きや盛り付け、下膳などできることを職員と一緒にやっている。月に1度は事業所内で利用者とともに行うおやつ作りも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量などチェックし個々に合った食事形態でできるだけ食べていただける様支援している。又どうしても飲食が難しい場合には物を替えて飲食出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け、半介助、全介助と本人の力に応じて行っている。又、スポンジブラシを使用しての口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりに合わせて声掛けや誘導パット交換を行っており、出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している。	意思表示のない人は排泄チェック表に基づいて支援するなど、利用者個々に合わせた声掛けや排泄誘導を行っている。夜間おむつ使用の人も日中は紙パンツやパッドを使用するなど、1人ひとりに寄り添い排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にたよることが多いが、原因となる水分不足や運動量など確認したり、腹部マッサージ等行いながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日や時間を職員の都合で決めているが、希望すれば2回以上の入浴は可能である。又、どうしても入りたくない時は日や時間を変更しての支援を行っている。	週2回の入浴を基本としているが汚染時や希望により随時に入浴している。拒否する場合は無理強いせず、時間をずらして再度声掛けをしたり、日を変えたりしながら、入浴が心地よいものになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ居室や自席・ベットやソファなどで自由に休息しており、夜間は側にいてほしい時や話したい時等は側にいて安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をカルテに用意し薬の名前副作用について確認出来る様にしている。又、症状や変化を観察して何かあれば看護師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やパズル、洗濯物干し、たたみ、食器拭き食器洗い、テーブル拭き、花植え水やり等役割楽しみが持てる様支援している。又、本人希望でおやつタイムを作ったり、外気浴が出来る様にもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散歩することができ中庭で花の観賞や野菜の収穫をしたり玄関でメダカを見たりしている。又、自分でいけない方に対しては定期的の中庭デッキに誘導して外気浴をしたり花の観賞をしてもらったりしている。	遠出は制限しているが、敷地が広く天気の良い日は駐車場や中庭を散歩している。車いす利用者もデッキで日光浴やお茶を楽しんだり洗濯物を取り込んだり一緒にでき、また、保育園からもらった芋を施設内で焼き芋にしたりと楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合いお金を持ちたいという方には持てる様支援を以前行っていたが今は、殆どどの利用者はお金を持っていない。お金がどうしても気になる方は財布に1円や10円を入れて持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けたり、家族からかかってきた電話を取り次いだり、手紙がうまく読めない方には読んであげたりして支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節を感じられる物を貼ったりかざったりしている。又、自然な光を工夫したり利用者に合わせて調整している。	玄関の前には沢山の季節の花が生けられており、ホールは窓が障子のため明るく広々としている。個々の写真や利用者とともに作った作品が飾られ、利用者のほとんどの方が日中はホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、デッキに椅子を置いたりして自由に過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人の若い時の写真や今の写真を飾ったり、使い慣れた物を置いたりして過ごし安くなる様工夫している。	各居室にトイレがあり、移動しやすいように個々に応じてベッドの位置や向き、家具の配置を工夫している。家族の写真や個々の作品が飾られており、馴染みのテーブルやテレビなど、居心地の良さや安全性を考慮した設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりに合わせベッドの位置や高さを調整したりトイレや部屋の前に名前を書いたりして安心・安全である様な工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600719		
法人名	医療法人ニコニコ診療所		
事業所名	グループホームおさかの里(つつじ館)		
所在地	大分県豊後大野市三重町小坂4194番地9		
自己評価作成日	令和4年10月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和4年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールや居室の壁、ダンス等が木目調で、居室の窓はカーテンでなく障子を使用しており、懐かしさを感じられる。
 吹きぬげの中庭から差し込む光に温かみがあり、落ち着ける環境になっている。
 医療と介護の連携がとれており、適切な医療が素早く受けられる。
 各ユニットで統一したケアを目指してカンファを随時行い、御利用者が安心して生活出来る様、心掛けている。
 利用者の残存機能を活かした取り組みにしており、御利用者・職員共に笑顔溢れる内容にしている。
 国家資格を持ったスタッフが多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームおさかの里さくら館に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念とモットーを唱和して実践に繋げようと努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため直接会っての交流は難しいが、週2回程度のボランティアの方が1名来てくれたり交流のあった地域の方が花や敬老の日のプレゼントを作成してくれたりその時々で気にかけて支援してくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域でのサロン等で認知症について理解や支援方法、予防について発進し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組状況の説明と共に転倒防止のための足の運動の取り入れやリモートでの面会等の意見やアドバイスを活かしサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で実情や取り組みについて伝え相談するだけでなく、気になる事やわからない事など連絡をして関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修で学び拘束しない事を前提に日々ケアに取り組んでいる。又、グループホーム会議の中でも気になる事はないか具体的に話をしてケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修で学び、入浴や更衣時にボディチェックを行い傷等あれば記録に残し共有するなどして取り組んでいる。又、グループホーム会議でもチェックして話し合っている。		

事業者名:グループホームおさかの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の研修で学ぶ機会はあるが必要性について話し合ったり活用できる支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や疑問点等に対してよく説明をしてその都度理解や納得が図れる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や電話面会時等で家族の意見や要望を聞く機会があり又、利用者との話しの中で意見等聞いて反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議やカンファレンス、日々の業務の中で意見や提案を聞いたり、管理者にちょっとしたことでも報告をして反映できる様に努めているが難しいことが多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせて整備に努めているが色々な不満があり各自が向上心を持って働けていなかったり、会議などに出された要望等の整備にも時間がかかってしまう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は資料を配布し自己学習を行える様にしている。又、外部研修もリモートや参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのためなかなか難しいが、研修会等で同業者との交流が行える様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談のあった時から本人や家族との顔合わせを行い関係作りをして、安心出来る様訴えや意見を受け入れて信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より要望や不安なことがないか確認して受入れ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族利用者とまず話しをして必要性を判断しサービスを含め法人内での対応等も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で出来ることを見極め、洗濯物干し・たたみ、食器の片付け、食器洗い、テーブル拭き、シーツ交換等を共に行い時には人生の先輩として相談をしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため直接面会は出来ていないが、窓越し面会やライン面会等で近況報告をしたり、生活の様子を写真に撮り家族に渡したりして本人と家族の間に立って共に支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため馴染みの人との交流は難しいが写真等飾って忘れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ちょっとしたトラブルはあるが、歌やゲーム等を通して利用者同士が関わりを持ち分らない事は教え合ったりして支え合っている。又、座る席や居室もうまく行く様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あった際は必要に応じて支援に努めているが、他施設に入所や入院後はコロナのため面会等には行けていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いに耳を傾けその意向にそえる様家族とも話し合っ意向が共有できる様申し送りノート等活用し検討に努めている。困難な場合は本人と話しをしてその時納得をしてもらったりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録や本人家族からの情報を職員同士が共有する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり自由に過ごしており、バイタルチェックや食事水分量等毎日確認記録し会話やレク等様子観察により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意見が反映される様職員間の話し合いや担当者会議等で介護計画を作成する様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やチェック表申し送りノート等に記入し職員間で情報の共有を行ってプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス中心ではあるが、病院受診等家族がいけない人に対して職員が同行したりしている。		

事業者名:グループホームおさかの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はオレンジカフェ等利用していたが現在は利用出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診している病院やかかりつけ医との情報の共有をしており、月2回の訪問診療がありそれ以外でも受診相談ができる様な支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に情報の共有を行い相談して適切な医療が受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に連絡し状況の確認を行い情報交換しながら早期の退院が出来る様に関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族やかかりつけ医と話し合い事前に申し合わせ書を作成し再度出来る事出来ない事等確認してチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを確認して訓練をして実践出来る様にしているが、毎年行っていた心臓マッサージやAEDの訓練がコロナのため行えておらず夜間等少し不安である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画で災害時の研修や避難訓練を実施しているが、地域の方への声掛け協力がコロナのため難しい現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせ声掛けに工夫しプライドやプライバシーを損ねない様に思いやりを持った対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な発言ができ職員はそれを傾聴してできるかぎり希望がかなえられる様又、衣類やレク参加食事等自己決定が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時等職員の都合を優先することがあるが、できるだけ一人ひとりのペースを大切にしてその日の過ごし方を希望に沿って支援する様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行き好みの髪型にしたり、その日の気分を着たい服を選んだりしてその人らしく過ごせる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を共に作ることはしていないが、嫌いな物は変更して嫌な気分にならない様にしたり、洗い片付けを共に行ったりしている。又、一ヶ月に1回程度職員と共におやつ作りを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量などチェックし個々に合った食事形態でできるだけ食べていただける様支援している。又どうしても飲食が難しい場合には物を替えて飲食出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛け、半介助、全介助と本人の力に応じて行っている。又、スポンジブラシを使用しての口腔ケアも行っている。		

事業者名:グループホームおさかの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりに合わせて声掛けや誘導パット交換を行っており、出来るだけトイレでの排泄が出来る様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にたよることが多いが、原因となる水分不足や運動量など確認したり、腹部マッサージ等行いながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日や時間を職員の都合で決めているが、希望すれば2回以上の入浴は可能である。又、どうしても入りたくない時は日や時間を変更しての支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ居室や自席・ベットやソファなどで自由に休息しており、夜間は側にいてほしい時や話したい時等は側にいて安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をカルテに用意し薬の名前副作用について確認出来る様にしている。又、症状や変化を観察して何かあれば看護師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やパズル、洗濯物干し、たたみ、食器拭き食器洗い、テーブル拭き、花植え水やり等役割楽しみが持てる様支援している。又、本人希望でおやつタイムを作ったり、外気浴が出来る様にもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散歩することができ中庭で花の観賞や野菜の収穫をしたり玄関でメダカを見たりしている。又、自分でいけない方に対しては定期的に中庭デッキに誘導して外気浴をしたり花の観賞をしてもらったりしている。		

事業者名:グループホームおさかの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合いお金を持ちたいという方には持てる様支援を以前行っていたが今は、殆んどの利用者はお金を持っていない。お金がどうしても気になる方は財布に1円や10円を入れて持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けたり、家族からかかってきた電話を取り次いだり、手紙がうまく読めない方には読んであげたりして支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節を感じられる物を貼ったりかざったりしている。又、自然な光を工夫したり利用者に合わせて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、デッキに椅子を置いたりして自由に過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人の若い時の写真や今の写真を飾ったり、使い慣れた物を置いたりして過ごし安くなる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりに合わせベッドの位置や高さを調整したりトイレや部屋の前に名前を書いたりして安心・安全である様な工夫をしている。		